

医療を問う—— 費用対効果に拠る 政策への転換

2016年

12月15日 [木]

16:00～ (受付開始15:30)

会場 大手町サンケイプラザ 301-302

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-7-2
Tel.03-3273-2230 <http://www.s-plaza.com>

アクセス 東京メトロ 丸の内線・半蔵門線・千代田線・東西線・
都営三田線「大手町」駅下車A4・E1出口直結
JR「東京」駅丸の内北口より徒歩7分

主催 一橋大学社会科学高等研究院 医療政策・経済研究センター

参加費 無料 (事前申し込みが必要です。申込締め切り 12月8日)

お申し込み

<http://health-economics.hias.hit-u.ac.jp/event/forum/>

※定員(100名)になり次第締め切ります。

お問い合わせ

一橋大学社会科学高等研究院 医療政策・経済研究センター(担当 森)

<http://health-economics.hias.hit-u.ac.jp/contact/>

PROGRAM

- 15:30 開場
- 16:00～16:05 学長挨拶 一橋大学長 蓼沼 宏一
- 16:05～16:50 基調講演
医療技術の経済評価——
『費用対効果』を使った政策意思決定のあり方
中村 良太 一橋大学社会科学高等研究院 准教授
- 16:50～17:00 休憩
- 17:00～18:30 パネルディスカッション
日本の医療システムのこれから——
持続可能な制度設計に向けて
[パネリスト]
松山 幸弘 キヤノングローバル戦略研究所 研究主幹
井伊 雅子 一橋大学大学院経済学研究科 教授
小塩 隆士 一橋大学経済研究所 教授
猪飼 周平 一橋大学大学院社会学研究科 教授
中村 良太 一橋大学社会科学高等研究院 准教授
[ファシリテーター]
佐藤 主光 一橋大学社会科学高等研究院 医療政策・経済研究センター長
一橋大学大学院経済学研究科 教授
- 18:45～20:00 交流会

一橋大学社会科学高等研究院

医療政策・経済研究センター

Research Center for Health Policy and Economics

URL <http://health-economics.hias.hit-u.ac.jp/>

HiAS
Hitotsubashi
Institute for
Advanced Study

一橋大学社会科学高等
研究院(HIAS)は、重点
領域研究テーマの1つと
して「医療経済の高度研
究」に取り組んでいます。



一橋大学
HITOTSUBASHI UNIVERSITY

医療を問う—— 費用対効果に拠る政策への転換

■開催趣旨

わが国の国民医療費は増加の一途を辿っており、2013年度には初めて40兆円を超えるなど、医療は財政を圧迫する最大のリスクとなっています。政府は、地域医療構想等を通じた医療費の適正化を図っていますが、先行きは定かではありません。医療の質を確保しつつ、医療費を適正化するには、費用対効果に基づく医療資源の配分、診療報酬・薬価報酬等の見直し、家庭医・総合診療専門医育成を含む公平で持続可能な医療提供体制の構築が必要です。

一橋大学は、こうした政策課題に応える取り組みとして、2016年2月に「医療政策・経済研究センター」を設立し、医療経済の高度研究を推進しております。

本フォーラムでは、基調講演で、日本をはじめとして、諸外国の政策動向や、最新の研究成果の紹介と共に、医療システムの生産性を定量化する手法や、医療における費用対効果の考え方について解説します。また、パネルディスカッションでは、中長期的な観点から、我が国の医療制度改革の方向性について議論し、併せて、医療政策・経済研究センターに期待される役割について展望します。

医療・介護従事者、研究者をはじめ、国民医療費の問題にご関心のある皆様のご参加をお待ちしております。

■基調講演

医療技術の経済評価——「費用対効果」を使った政策意思決定のあり方

講演者 中村 良太 NAKAMURA, Ryota 一橋大学社会科学高等研究院 准教授

費用対効果分析を使った医療技術の価格付け・保険収載の決定にむけた制度整備が進んでいる。これに伴い、新しい医療技術が、既存の技術とくらべて費用対効果に優れるか否かを評価するためのルール作りが求められている。このルールは、透明性が確保され、かつ国民が納得できるものでなくてはならない。本講演では、医療支出の「機会費用」を使った費用対効果判断の方法を提案する。これに関連して、各国の政策の動向、最新の研究成果や今後の発展について解説を行う。

■パネルディスカッション

日本の医療システムのこれから——持続可能な制度設計に向けて

パネリスト



松山 幸弘 MATSUYAMA, Yukihiko
キヤノングローバル戦略研究所 研究主幹

東京大学経済学部卒業。生命保険会社に24年間勤務後、富士通総研経済研究所主席研究員、民間医療法人専務理事等を経て2009年4月より現職。社会保障審議会福祉部会委員、規制改革会議健康・医療ワーキンググループ専門委員等を歴任。経済学博士。専門分野は、社会保障制度の国際比較。主な著作に「米国の医療経済」(1990年)、「人口半減:日本経済の活路」(2002年)、「医療介護改革の深層」(2015年)。



井伊 雅子 II, Masako
一橋大学大学院経済研究科 教授

国際基督教大学(ICU)を卒業後、ウィスコンシン大学マディソン校でPh.D.(Economics)を取得。ワシントンDCの世界銀行で働いた後、1995年から横浜国立大学経済学部、2004年から一橋大学、2015年より現職。医療経済学を専門とし、質と財政の両立を目指した医療制度構築(プライマリ・ケアのシステム)や医療費統計の国際比較などを研究テーマとしている。



小塩 隆士 OSHIO, Takashi
一橋大学経済研究所 教授

東京大学教養学部卒業後、経済企画庁(内閣府)、J.P.Morgan勤務等を経て、2009年より現職。大阪大学博士(国際公共政策)。専門は公共経済学。医療関係では、公衆衛生、社会疫学、産業医学など、医学と経済学・社会学が「相互乗り入れ」できる分野で、子供期の社会経済的環境の健康への影響、職場環境とストレスとの関係、介護者のメンタルヘルスの決定要因、社会関係資本と健康との関係などの研究に従事。



猪飼 周平 IKAI, Shuhei
一橋大学大学院社会学研究科 教授

東京大学経済学部卒業、同大学院博士課程修了(経済学博士)。2001年佐賀大学経済学部専任講師、同助教授を経て、2007年より一橋大学大学院社会学研究科准教授、2013年より現職。専門はヘルスケア政策、社会政策、社会福祉、比較医療史。

ファシリテーター



中村 良太 NAKAMURA, Ryota
一橋大学社会科学高等研究院 准教授

京都大学経済学部卒業後、ヨーク大(英国)にてPh.D.(Economics)を取得。イーストアングリア大学経済学部・医学部、ヨーク大学医療経済研究所を経て、2016年より現職。統計数理研究所客員准教授を兼任。専門は医療経済学、公衆衛生。生活習慣病予防を目的とした健康行動の行動経済分析や政策の評価、また費用対効果分析を用いた医療資源の効率的配分についての研究に従事。



佐藤 主光 SATO, Motohiro
一橋大学社会科学高等研究院 医療政策・経済研究センター長
一橋大学大学院経済研究科 教授

一橋大学経済学部卒業、1998年クイーンズ大学(カナダ)でPh.D.(Economics)を取得。1999年一橋大学大学院経済学研究科専任講師を経て、2009年から現職。国際・公共政策大学院(専門職大学院)教授を兼務。専門は財政学・地方財政。医療経済関係では医療保険制度の理論と制度を研究。学術に基づく政策提言に努めてきた。